

お知らせ

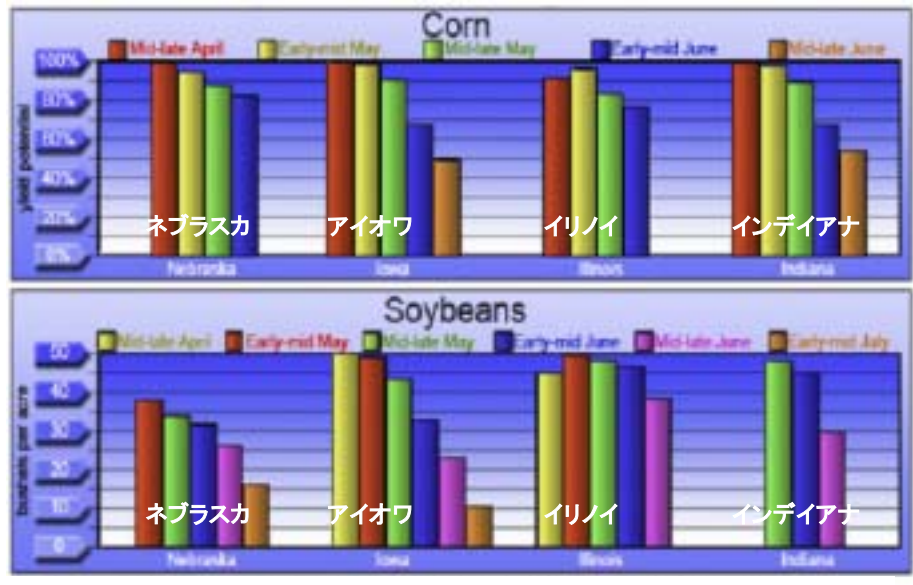
- 5/30-6/1に開催予定の ifia JAPAN 2007 の大豆パビリオンに米国アイオワ州の Non-GMO/有機大豆のサプライヤーであるシードカンパニー (The Seed Company Inc./Supreme Soy) が展示参加することになりました。事前にコンタクトを希望される方は hcopper@supremesoy.com (代表取締役社長 ハリソン・カッパー) まで連絡下さい。日本語・英語・中国語OKです。
 シードカンパニー 日本語ホームページ → [The Seed Company, Inc./Supreme Soy](http://TheSeedCompanyInc.com)
- ASA-IM は ifia の大豆パビリオンで昨今の大豆の需給、海外のソイフーズ市場概要についてプレゼンテーションを予定しています。

米国大豆・コーンの作付

大豆とコーンの最適作付日

(コーン単収)
 イールド・ポテンシャル
 0-100%

(大豆単収)
 1エーカー当りのイールド・
 0-50 Bu/A



CORN コーン

赤	4月中～下旬
黄	5月初～中旬
緑	5月中～下旬
青	6月初～中旬
橙	6月中～下旬

SOYBEAN 大豆

黄	4月中～下旬
赤	5月初～中旬
緑	5月中～下旬
青	6月初～中旬
紫	6月中～下旬
橙	7月中～下旬

(Golden Harvest Up Front Researchとアイオワ州立大学、イリノイ大学、パデュー大学)

- 先月30日、USDA(米国農務省)は、米国農業生産者の2007年度「作付面積意向調査結果」第1報を発表した。当報告によれば、大豆作付は11%減少、コーンが15%増加。調査結果は3月初旬の生産者の意向を反映したもので実際の播種は今後の価格動向や天候により変更される可能性がある。
- 報告から2週間後の4月13日現在、気象予報会社のFreese-Notis Weather社はコーン・ベルト地帯の多くの地域で予測されている雨がちな天候が、米国のコーン作付の遅延を次週にまでもたらず可能性を既に指摘している。先週、大豆の最大生産州-アイオワ州で通常の4倍の雨量、また降雪も記録された。
- 一般的に米国の生産者にとって、4月半ばが近づくにつれ、理想的な作付日からの最大収量がどれくらい失われるかが最大懸念事項になる。作付が遅延されることで、単収は日々エーカー当たり1ブッシェル縮小する可能性が出てくることも農経済学者によって報告されている。
- 上の棒グラフはアイオワ・イリノイ・ネブラスカ・インディアナ州などの主要コーン・ベルト州の大豆とコーンの最適作付日-作付日と単収の関係一を表している (Agriculture Online Markets 4/12/2007)。最適な作付日に関しては、作付日の環境とともに適宜な降雨、灌漑およびその他の管理要因が収量に影響を与える。アイオワ州とネブラスカ州では4月中旬から下旬にかけてがコーンの単収を最大限にする最適な期間になっている。イリノイ州では5月初旬から中旬がコーンの作付を勧める時期で、インディアナ州では4月中旬から5月中旬までがコーンの作付を勧める時期である。
- 大豆については、アイオワ州では4月中旬から下旬の間が最適な作付日になっており、5月中旬から下旬でも単収はそんなに減らない。イリノイ州では5月初旬から中旬にかけてが最適な作付日で、インディアナ州では5月中旬から下旬にかけて、ネブラスカ州では5月初旬から中旬にかけてが最適な作付日になっている。
- 上記状況から既に作付期間の長い大豆にシフトされる可能性が出ている。コーン作付動向においては、今後2週間の天候が最も注視される。
- 実地調査に基づく「作付面積予想調査結果」は6月29日にUSDAが発表。

American Soybean Association IM Japan
アメリカ大豆協会 発行
 HP: <http://www.asajapan.org/>
Food Soybean: Masako Masi Tateishi
食品大豆 担当: 立石雅子
 E-mail: mailto:asamt@eol.com